

STAGE+を楽しむ(44)(HP 収載)

—ヘルムート・ヴァルヒャを聴く(1)—

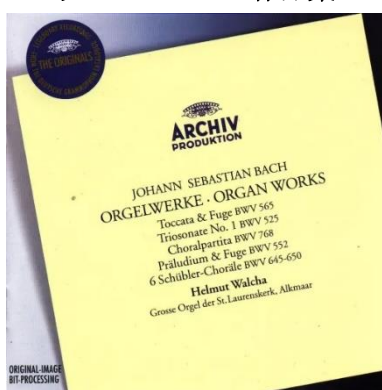
1. 始めに

前報(43)に引き続き、STAGE+のヘルムート・ヴァルヒャの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ヘルムート・ヴァルヒャのアルバムの演奏を選びました。

J.S.バッハ：オルガン作品集



ヘルムート・ヴァルヒャ (オルガン)

ヨハン・セバスティアン・バッハ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

ヨハン・セバスティアン・バッハ トリオ・ソナタ 第1番 変ホ長調 BWV525

ヨハン・セバスティアン・バッハ 喜び迎えん、慈しみ深きイエスよ

BWV768

ヨハン・セバスティアン・バッハ 前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV552

ヨハン・セバスティアン・バッハ

目覚めよとわれらに呼ばれる物見らの声 BWV645

われいずこに逃れゆくべきか BWV646

尊き御神の続べしらすまにまつろい BWV647

わが主をあがめ BWV648

われらと共に留まりたまえ BWV649

イエスよ、いまぞ御空より降り来りて BWV650

ヘルムート・ヴァルヒャのオルガンは、クラシックを聴きだした若い頃から親しんできたもので、収録曲にはお馴染みのものがあります。

録音年代が古いので、音質面でどうかと思いながら聴き始めましたが、非常に鮮明で、高音は透明度が高く、ペダル領域もクリアーです。

ヴァルヒャのバッハの演奏は定番といってもよく、トッカータとフーガやトリオ・ソナ

タや前奏曲とフーガは、構成がしっかりしたオーソドックスな演奏で、バッハの精神的確に表現しています。教会カンターものもオルガンで表現するとうなるというお手本みたいなものです。このような収録の古い定番の演奏が配信で観賞できることはありがたいことです。

トッカータとフーガニ短調とトリオ・ソナタ第1番変ホ長調は、1956年録音のシュニットガーオルガンの演奏の、おそらくマスターが同じ ARCHIV 盤がありますので、別途聴き比べてみます。

以上